

苦しいとき、いつでも何度でもやってみよう。

そして、自分の胸を拳で叩いてみるという。

などと言葉を交えればいい。

「最期まで自分の体で」とか「最期まで自分のこの心で」

事故などで脚を失った人、立つことのできない人は、

もちろん、二本の脚というのはいくらでも比喩だ。

勇気が、湧いてくる。

太ももを両手でパシッと叩いてみる。

「しっかり頼むぞ、自分！」という気持ちで、

「この二本の脚で」と言うときに、

どうか、そのための力を与えてください。

しっかりと立っていられるように、

最期まで自分のこの二本の脚で

自分は逃げません。

この風が通り過ぎるまで、

次の言葉を心に浸透させるんだ：

ひとり、部屋の中でどっしりと座り、

あなたに力を与えてくれる言葉を教えよう。

人のせいにするな。

環境のせいにするな。

恨むな、呪うな、言葉を汚すな。

あたふたと誰かに何かにすがろうとするな。

降り注ぐ不安や恐怖は腹に収める。

そこからあなたの力が湧いてくる。

頼むものは自分しかない。

自らの力で乗り越えられない課題など与えられない。

決していじけるな。

誇りを持ってこの運命を受け止める。

あなたほどの大きな人間でなければ、

この試練は与えられなかったのだから。

覚悟を決めたらあなたは立ち向かう“戦士”だ。

覚悟を決めるまでは、あなたは逃げ惑う“被害者”だ。

決めなくてはいけない。腹を括らなくてはならない。

遅かれ早かれ、あなたはこの運命を受け止める覚悟を

これはあなたの試練だ。あなたの課題だ。

いたとしたら、それはあなたを利用しようとする人。

あなたは求めている。でもそんな人はいないよ。

「すべてお任せください」と言ってくる人を、たぶん、

この課題はあなたの課題なんだ。その人のものじゃない。

でも、その人を責めちゃいけない。

「自分じゃなくよかった」という響きが感じられる。

大変だねと慰めてくれる人の言葉にも、

淡々と、ひとつひとつそのゴミを片付けよう。

でも、いじけてはいけない。

そんな惨めな気持ちになることもあるだろう。

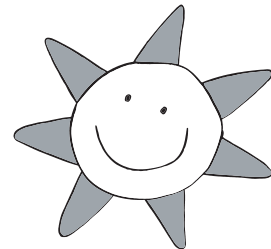
ゴミを投げ捨てて行くような、

まるで、誰もがあなたの庭にだけ

この試練は与えられなかっただろう。

あなたほどの大きな人間でなければ、

Mochiaruku-Kotodama 01



<http://sublimation.net>

Copyright 2005 Opie Associates Co.,Ltd. All rights reserved.